

地域政策特殊研究

担当者 明石 芳彦

開講時期 通年 単 位 4

特殊研究は1～3年次の3年間を通して行われる演習科目です。

●講義の概要

研究テーマに関わる先行研究の把握、研究上の独自性の出し方、論文の構成と論理展開の適切性を理解した上で、博士論文を作成していく。

●講義の到達目標

3年間で博士論文を作成できるよう、研究テーマの早期決定、先行研究レビュー、研究課題（リサーチ・クエスション）の決定、研究方法の選択など、論文の書き方や進め方を理解し、実行する。

●講義計画

基本的に、学生の研究関心に応じて、検討テーマや講義の進め方を決定する。

講義方針として、1年次は研究テーマの絞り込みと特定を意識して先行研究をレビューし、研究課題（リサーチ・クエスション）をできるだけ早期に決定できるように指導する。

2年次は（または、研究課題が決定した後）、自分に独自の研究内容を拡充できるように理論的・概念的検討を地道に行うとともに、実証的分析に関する指導を行う。

3年次は、それまでの研究内容を系統的・整合的に関連づけることや、理論的・概念的検討を踏まえて理論的・概念的フレームワークを構築し実証的分析を行う形式となっているかなどについて留意しつつ、博士論文としての完成度を高めていくように指導する。

●成績評価基準と方法

博士論文の学術論文としての完成度や到達度など、研究成果の内容や水準に基づく。

評価基準は、博士論文がたとえば、第1に、先行研究内容的確にレビューし理論的・概念的検討を行い、それを踏まえた理論的・概念的フレームワークを基盤にもつ実証的分析形式となっていること、第2に、従来、十分な研究がなされていない研究課題を理論的・概念的理解として適切に位置づけ、既存研究では取り上げられてなかった論点や実態を独自に研究・分析した成果としていくつか提示できたこと、である。

●テキスト又は参考文献

使用しない。必要に応じて、参考文献を指示し、資料を配布する。

●受講上の留意点

博士論文の作成をライフワークと勘違いしないこと。

研究を通じて何を明らかにしたいか、を常に明確に意識すること。

先行研究との対比で、論文としての学術的意義を提示し続けること。